中学校　国語科学習指導案

指導者　　髙島　幸

日　　時　平成28年10月15日（土）　第２限（10:35～11:25）
場　　所　第１研修室
学年・組　中学校３年Ａ組　39人（男子19人，女子20人）
単　　元　読みの幅を広げる―「少年―海」(芥川龍之介)
目　　標　１．「代赭色」の海について語られている叙述に基づいて文章を解釈し，語り手を意識する。
２．学習者相互に読みを交流することによって，読みの幅を広げる。
３．書き手のものの見方や考え方を読み解くことで，自分のものの見方や考え方を広げる。

授業について

研究大会の主題「次期学習指導要領に向けたアクティブ・ラーニングの展開」を受けて，国語科では「学びの質を高めるために」を教科主題として掲げている。

生徒が今後社会に出た際に求められる力としては，科学的な視点で物事の道理を究明し，そこでの知見を実社会で活用する力であろう。国際化が進み，社会が急激に変化を遂げる中で，人間の複雑さの絡まった問題を解決していくためには，今以上に創造性や協調性が求められる。そのようなグローバル社会を生き抜くことができる人材を育成するためには，議論や対話による相互啓発を通して学びを深めるとともに，創造性や協調性を育成することが必要であると考える。作品を構成する諸要因の発見とその意味づけをする中で捉えた解釈を，学習者相互に意識化し，交流をはかることはそのような力の育成につながるのではないか。授業の中で，ファシリテーターとしてそのような学習過程を設定し，別の側面から眺める視座に気付かせ，学びの質を高めていくことをめざしたい。

芥川龍之介の『少年』は，「保吉もの」と言われる作品群に分類される。一九二四年（大正一三）年に『中央公論』に『少年』として発表されたものと，翌月，同じく『中央公論』に『少年続編』として発表されたものを，一つにして六章で構成されており，保吉が少年時代の体験を回想的に語るといった構造を持っている。教科書に掲載されているものは，『少年』のうち，「四　海」を抄出したものである。「少年 ― 海」は，物語世界からおよそ三〇年後の時点で回想的に語られているが，少年「保吉」と三〇年後の「保吉」，そして「語り手」との関係をどのように捉えるかは学習者によって異なるだろう。読みを他者と交流することで，学習者に多様な読みを共有させたいと考える。ファシリテートすることにより，生徒が到達した読みをどこまで多様化し，深化させることができるのか，そのことについて考えてみたい。

評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	話す・聞く能力	知識・理解
・語りに即して作品の叙述を根拠としながら読もうとしている。	・小説における語り手を意識することによって、内容の理解に役立てている。	・異なる読みがあることを想定し、聞き手に自分の考えを理解してもらえるように話している。 ・話し手の考えを聞き取り、自分の考えと比較している。	・語句の意味や用法を理解しようとしている。

学習計画（全４時間）

次	学習活動	評価規準と方法
1	全文を通読し、自己の読みを形成する。語句の意味・用法については学習シートで確認する。この小説はどんな小説か、考えた点・疑問点をカードに書く。（１時間）	関・読・知 行動観察・カード
2	グループごとに他者と交流し、多様な読みを形成する。各自の読みを相互評価し、疑問点の解決をはかる。読みの到達点と解決できなかった疑問点をグループごとに発表する。（２時間）	関・読・話・聞 行動観察・発表資料・発表
3	ファシリテートにより読みの多様化と深化をはかる。 （１時間）【本時】	関・読・話・聞 行動観察・発表

本時の学習目標

1．語り方を意識した読みの交流を通じて、読みの多様化と深化をはかる。
2．この作品で語られているものは何かを考える。

本時の学習指導過程

学習活動	指導上の留意点	評価の観点と方法
1　前時の振り返りをする。	・交流して到達した読みと、未解決の疑問点とを確認させる。	未解決の疑問点を自己の課題として考えようとしているか。 行動観察
2　小説をどのように読んだか再考する。		
Ⅰ　海を考える。	・海の象徴するものについて考えさせる。	描写に即して考えようとしているか。 発表・行動観察
Ⅱ　語りを考える。	・語りと語られているものについて考えさせる。	語りについて考えようとしているか。 読みの多様性について理解しているか。 行動観察
3　本時のまとめ		